

あったか福祉 のまちづくり

地域包括ケアシステム

住み慣れたまちで最期まで働き、暮らすことができる「地域包括ケアシステム」の構築が進んでおり、高齢者だけでなく、障害者や子育て家庭、生活困窮者などの支援を必要とする全ての人が、その人にあった支援を切れ目なく受けることができ、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる仕組みが広がろうとしています。



「地域包括ケアシステム」について先駆的に取り組んでいる千葉県柏市の「柏の葉スマートシティ」の会派視察を行い、福祉を地域で支えることの大切さ、公・共・私での取り組みの必要性を学びました。「地域で支え合うモデル福祉都市」を目指し、第3期草津市地域福祉計画の実行にあたっては、互いの違いを認め合うことが重要です。これらを踏まえ、人に温かい福祉施策となるよう引き続き提言活動を行ってまいります。

かかりつけ医の推進

高齢者福祉および介護保険事業を一体的に策定する「草津市あんしんいきいきプラン」において、在宅医療・介護連携の推進を重点施策として、かかりつけ医の普及促進など、住み慣れた地域で医療・介護を受けながら自分らしい生活をする事ができる基盤構築を目指しています。



「地域包括ケアシステム」の実現にあたっては、身近なかかりつけ医、歯科医、薬局が大切であると考えます。「地域包括ケアシステム」の現状について、代表質問にて橋川市長に確認を行い、在宅医療と介護サービスの連携や認知症対策、新しい介護予防・日常生活支援総合事業など幅広い事業に取り組んでいることを確認しました。住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、引き続き提言活動を行ってまいります。

待機児童ゼロ

待機児童ゼロを目指し保育園の増設や、既存の幼稚園、保育園のこども園化に取り組んでいます。平成30年4月に待機児童0人だったのが12月には228人に増加しています。また病児・病後児保育については平成29年4月から市南部地域で新たに開設し、市北部地域と合わせて2施設で一時保育可能となりました。



従来から待機児童の解消に向けた要請を続けており、草津市も対応している状況ですが、一時的には待機児童ゼロになるものの潜在的なニーズがあり、維持できていない状況です。更には今年10月には保育園が無償化されるため、ニーズは益々増加する可能性があり、待機児童ゼロに向けては、継続した取り組みが不可欠であり、引き続き要請を行ってまいります。

奥村やすひろ連絡先



市政、議会に対するご意見や、お困り事や相談事などお気軽に連絡ください
ホームページ：<http://okuyasu.net/> メール：ok.kouenkai@gmail.com



奥村やすひろ 後援会ニュース

発行：奥村恭弘後援会 発行責任者：瀬川 真司 編集者：奥田 直 発行日：2019年 2月 No. 56



街⁺を変える 人⁺を育てる 未来⁺を創る
いきいきと暮らしていける
草津の実現！

草津市議会議員
奥村やすひろ

将来への挑戦

日頃より奥村やすひろの諸活動に対しまして、ご支援ご協力を賜り厚く御礼と感謝を申し上げます。本年は物事が大きく変化する年となり、5月には平成から新しい元号に変わります。私自身も市議会議員の任期4年の最終年を迎えることができました。

最終年にあたり、これまで3年半の3つのまちづくりの政策の自己評価を行いました。「のびやか環境のまちづくり」では、私たちの生活に大きな影響を与えている交通問題について、また将来にわたり草津市で生活する上での環境整備について長年訴えてきた結果、少しずつ成果が見えてきました。

「あったか福祉のまちづくり」では、住み慣れた地域でいつまでも生活ができ、若いも若きも安心して福祉サービスを受けられるまちになるよう提言活動を行い、地域における包括支援、包括医療のインフラ整備が進んできました。

「すこやか教育のまちづくり」では、電子黒板による授業の開始など、時代を見据えた教育環境の整備が進んでいます。しかし一方で青少年の非行は年少化やインターネットやSNSの影響などにより複雑、多様化をしています。家庭内の教育のみではなく、行政と地域の連携や気軽な相談体制の構築など引き続き提言を行ってまいります。

草津市は日本全体が人口減少にある中でも人口増加しており、活気と活力に溢れるまちだと自負しています。一方、必ず来る人口減少に備えたまちづくりの大切さを強く感じています。人口が減り「コンパクトなまち」になることを考慮した環境整備や、今後更に増えるであろう「ひとり暮らし世帯」への対応などが重要です。これには地域と行政、行政と民間企業とが互いの違いを認め合いながら協働してまちづくりを行うことが不可欠です。この実現に向けて、これまでの5期20年の議員経験、そして会社員、労働組合役員としての経験を最大限に活かした活動を行ってまいります。

さて私、奥村やすひろは、9月執行予定の草津市議会議員選挙において、6期目に挑戦する決意をいたしました。これからも初心を忘れず「いきいきと暮らしていける草津の実現に向けて」市民の目線で、働く人たちの目線で、活動を行ってまいりますので、引き続きのご支援ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。





のびやか環境 のまちづくり

草津川跡地整備事業

旧草津川が平成29年4月にde愛ひろば（区間5）、ai彩ひろば（区間2）としてオープンしました。平成29年度のde愛ひろばの利用者数は60万1,760人と多くの方々にご利用いただき、賑わいと潤いを創出しています。



これまで市議会で議論を重ね、6区間のうち2区間で整備が完了しました。オープン後も運用状況を確認し、通路の不具合などの改善要望を行い、また熱中症対策としてミスト式冷却機「グリーンエアコン」の設置提案を行いました。残る区間の維持管理の必要性についても一般質問や議会活動で強く訴えています。十分な管理となっていない状況です。すべての区間の整備が完成することで草津川跡地整備が完了するとの信念で引き続き提言を行います。

交通渋滞緩和

市内で慢性的な交通渋滞が発生していますが、南草津駅周辺の緩和策の一つとして、国道1号線南山田交差点・野路矢橋線道路の道路幅拡張工事が着工しました。また市役所前の国道草津3丁目交差点についても、改良工事に向けた準備が始まっています。



一般質問などで行政に強く要望していた南草津駅周辺の交通渋滞緩和策が、地域の方のご理解を得ながら実施されることになりました。人口増加傾向にある草津市において、交通インフラの充実が必要不可欠であり、幹線道路整備や連節バスの拡大運行、南草津駅の混雑解消に向けて、会派予算要望や一般質問等で引き続き提言活動を行ってまいります。

ごみ処理問題

草津市の総ごみ排出量は人口が増加する中、平成26年度3万8,210tが平成29年度は3万7,703tと減少しています。全国的な3Rの広がりに加え、ごみ問題を考える市民会議など様々な取り組みによる個人の意識の高まりが要因と考えられます。



市税の増収が見込めない中、ごみ処理費が徐々に市の財政を圧迫しており、ごみの減量化は喫緊の課題です。財源が限られる中、環境負荷の低減に努めるとともに効率的なごみ処理事業を目指す必要があると考えます。平成34年に改定予定の「一般廃棄物処理基本計画」の策定の際、資源循環型社会の構築と、プラスチック類焼却を含めた処理方法の検討などが慎重論議ができるよう一般質問にて提言と要望を行いました。

すこやか教育 のまちづくり

スポーツ施設の充実

建設が進んでいる新市立体育館がいよいよ平成31年3月に完成し、まもなく供用開始されます。また2024年に開催される国民スポーツ大会に向けて、県内初の飛び込み台が設置された草津市民プールが整備されます。



新市立体育館にはこれまで強く要望してきた冷暖房付きの空調設備が市内で初めて設置されます。これは災害時の避難所としても活用が可能です。また草津市民プールは、草津市スポーツ協会としても重点要望を行ってきた内容であり、多くの人たちに利用頂ける施設となるように引き続き要望を行ってまいります。市内のスポーツ施設の充実によりトップレベルの競技を観戦できる機会が増えることが期待されます。市民に夢と感動を与える施設になるよう積極的に競技の誘致ができるよう提言してまいります。

学校の運動用具・設備の充実

小中学校では毎年予算の範囲内で必要な備品などを購入しています。限られた予算の中では運動用具・設備の更新は優先順位が低くなりがちであり、老朽化が進んでも購入が後回しになっている状況があります。



子供のころから運動を行うことは、身体能力の向上と共に心も成長させることができます。子供が運動に親しむには運動用具の定期的な更新が欠かせないと考えます。一般質問において、既存の予算とは別にふるさと納税を活用した運動用具の充実を提言し、教育委員会との調整を進めていただいています。

青少年の非行防止

平成30年12月単月の草津署管内の少年非行の検挙補導状況は、14歳以上20歳未満による非行（犯罪少年）は、65人と前年同月と比べて横ばい、14歳未満による非行（触法少年）は34人と前年同月から倍増しており、低年齢化が進む予断を許さない状況にあります。



非行を未然に防ぐには、子供の生活の変化が顕著に表れる夏休みなどに相談できる体制強化が必要であると訴えてまいりました。非行発生時には「少年センター」「あすくる草津」が親身になって相談対応をいただいています。それらの施設に訪問し現状把握を行うとともに、一般質問において行政、警察、地域の連携の必要性について訴えました。